



説教	平和を実現する人々は、幸いである	高田 昌和	1
教会の課題	大会靖国委員会のこれまでの歩みとこれからの課題 -第70回大会を迎えて-	川越 弘	2
新約聖書学への招待	マタイ27章19節の新しい訳 第1回	住谷 真	3
■	旧日本基督教会の草創期-植村正久を中心に(8) 植村正久と文学-世界を眺める窓②	崔 炳一	4
目次	教会、この地とともに⑩ 吉田教会 教会、主にあつてこの地とともに	鈴木 和哉	5
■	定期中会報告 落ち着いて、静かにし、恐れることはない	北海道中会 近畿中会	6 6
	み言葉に照らされて さわやかな風に乗って	吉田 道子	7
	さんびかに生かされて 神ともに在して行く道を守り	山下 依子	7
	コロナ禍の中で④ 金のねずみ さんびかは私の先生	石東 岳士	8
	教会ニュース		8



平和を実現する人々は、幸いである

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5章9節)

たか だ まさ かず
高 田 昌 和

神の民イスラエルの発祥は、出エジプトの出来事にあります。エジプトにおいて奴隷であった民が苦しみの故の叫びを上げた。これを神が聞かれ、モーセを送り、民を奴隷の地エジプトから脱出させ、シナイ山で契約を結び、約束の地カナンへの旅へと導かれました。そして、荒野での四十年の旅路を終え、指導者がモーセからヨシュアに変わった時、「強く雄々しくあれ」との言葉を受け、神の箱（神がご臨在される場）を先頭にヨルダン川を渡り、イスラエルはカナンに侵入したのです。さて、このイスラエルのカナン侵入ですが、シナイ山で神から与えられた律法に「殺すな」とある中で、どのように行われたのでしょうか。

第一にカナン侵入に関しては、1930年代以降、「統一的軍事征服説」というものが学者達から示されました。第三次中東戦争後、学説を裏付けるべく、多数の居住地域の発掘調査が行われました。しかし、発掘の結果ヨシュアに導かれたカナン侵入の時代に大規模な破壊の跡が多く見られるということには疑問符がつき、破壊の痕跡は異なった時代のものではないか、との意見が出され、この統一的軍事征服説は懐疑的に見られるようになった経緯があります（それでもおそらく自身の考えと照らし合わせて信じている人々はいます）。

第二は、カナンの都市国家群（地中海沿岸）から離れた森林に覆われた地帯に、小家畜飼育者が牧草地転換などを行いながら平和的に滲透することが可

能であったが、初期イスラエルの民も牧草地転換の必要性からパレスチナの中央高地に入り、やがて定着して有力な集団に成長し、さらに都市国家群を併合したのではないかと、という「平和的滲透説」があります。

第三にカナン都市国家群で政治的・経済的特権を独占していた貴族と、無権利の農奴との対立があり、イスラエルによるカナン占領とはこのような農奴が貴族に対して反抗し、その支配の下から「引き上げた」ことに外ならないのではないかとする「社会的変革説」があります。

その後の検討の結果、第二・第三の説も決してそれだけでは十分とは言えないようです。しかし、単純に武力によって滅ぼし尽くせ、というようにイスラエルの民がカナンに侵攻して行ったわけではないことが伺えます。

では、神様はどのようにお考えになられて民を導こうとされているのか…。その結果は、主イエスの十字架という出来事を通して示されるのでしょうか。主イエスはイザヤ書53章で預言されているように、最後まで従順でした。主イエスが捕らえられる時、剣をもって反抗した弟子達を叱ってやめさせたように、暴力で事をなそうとはされませんでした。そして、その主イエスの十字架に向かわれる歩みの中で示された律法を完成する新しい掟が、「平和を実現する人々は、幸いである」という言葉なのです。

(小樽シオン教会牧師)